

研究課題名：	十二指腸潰瘍の実態調査
所属(診療科等)：	公立昭和病院 消化器内科
研究責任者(職名)：	細川 貴範 (医長)
研究期間：	2019年1月21日～2019年6月2日
研究目的と意義：	<p>十二指腸潰瘍の内視鏡的止血法は、クリップ法と熱凝固法が用いられる。クリップ法は、管腔が狭く病変を正面視しづらいことや、特に下行部などでは操作性が悪いこと、クリップが次のクリップの妨げになることなどにより、しばしば止血が困難である。一方、熱凝固法はクリップ法と比較し、技術的に止血が容易であるものの、粘膜障害による穿孔のリスクがあり、いずれの方法がよいのかは明らかではないため、十二指腸潰瘍の最適な内視鏡的止血法について検討する。</p>
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 当院で内視鏡を行い、十二指腸潰瘍出血と診断された患者を対象とする。 ●利用するカルテ情報 診断名、身体所見、検査結果、診療についての記録等 ●研究方法 当院で内視鏡を行い、十二指腸潰瘍出血と診断された患者の受診時のデータについて後ろ向きに検討を行う。 ●利用する研究機関の範囲 公立昭和病院
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】 氏名：細川 貴範 (消化器内科医師) 住所：小平市花小金井8丁目1番1号 電話：042(461)0052(代表) FAX：042(464)7912</p> <p>【ご意見・相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く) 総務課 042(461)0052 内線2247 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)</p>